

平成28年度

# 保護者向けセミナー開催のご案内

～みんなで、一緒に考えよう～

講師による講話のほか、同じ悩みを抱える方々同士の交流や情報交換等をしていただく時間を設けています。「親子関係はどうあったら良いのか」、「子どもとどう接していけば良いのか」、「解決に向かうにはどうしたら良いのか」など、一緒に考えていきませんか？

**3月のセミナー 平成29年3月11日（土）**

**セミナー講師：臨床心理士 安立 奈央 氏**

**テーマ：「座談会 ～相談支援のなかから伝えられること～」**

ちょっとした気がかり、心配事。いっしょに話し合いませんか。

【講師紹介】現在は、「サポステふくい」で心理カウンセリングを担当されています。

その他学校等で、生徒、保護者の方への支援に携わっています。

時 間：13：30～16：00

対 象：若年無業者のお子さんを持つご家族の方

定 員：20名（申込み方法：事前に「サポステふくい」までお電話ください。）

場 所：福井県社会福祉センター内

内 容：講師によるセミナー・意見交換ほか

**参加費 無料**

**サポステふくい（ふくい若者サポートステーション）とは…。**

若年無業者の方の職業的自立支援を行う機関です。サポステふくいは、厚生労働省の委託事業で、福井県との協働事業として行っております。



## 1月開催のセミナーレポート

日 時：平成29年1月21日（土）

テーマ：「子どもの心に耳を傾けよう！～これだけは押さえてたい3つのポイント～」

講 師：臨床心理士 臨床発達士 千崎 愛 氏

今回のセミナーは、傾聴で大切な技法の実践に始まり、ワークを中心に行いました。誤解が起こりにくい聞き方、話の聴き方、非言語的コミュニケーションについて話されました。

最初のワークでは、あいまいな言葉として「長電話をしました。」の「長電話」というのは時間にしてどれくらいかを数人のグループで話し合ってもらいました。最短で10分、最长で1時間になりました。こうした言葉は年齢や性別、主観で変わり誤解を招きます。誤解を防ぐためには、具体的な表現や、はっきりした言葉で聞くことが大切です。

参加者の方からは、子どもに「なんで、どうして…」と聞いてしまい、関係が悪くなり、どうしたらよいかという質問がありました。先生は、「（あなたは）どうして…」というのは、相手を責めているように聞こえるので、「（私【親として】は）〇〇すればよいと思う」という言い換えのほうが、聞き手に受け止めやすいと答えられました。また、閉ざされた質問と開かれた質問について説明されました。閉ざされた質問とは、「はい」、「いいえ」で答えられるものであり、答えやすい質問形式です。開かれた質問とは、相手の自由な応答を促し、話し始めるきっかけを作る質問形式です。これは、相手の状況に応じて使い分けることで、本人との会話を促すことができます。

ある就活中の女性とその母親の映像の中で、思うように進まない就活で、つらい思いをしている娘に、落ち込んでいる娘の背中を、何も話さずそっと押して励ます母親の姿に非言語的コミュニケーションが読み取れることを先生は指摘しました。

最後に、参加者の悩みについて、他の参加者が質問していき、当人の気づきを促すワークをしました。最後に先生が行動と結果について整理し、どう考えるとよいかアドバイスされました。参加者の方からは「子どもや家族との会話で活かしたい」との感想がありました。

【お問い合わせ】サポステふくい（ふくい若者サポートステーション）

福井市光陽2丁目3-22  
福井県社会福祉センター1F

TEL 0776-21-0311